雑録

『和漢三才図会』の桜苔

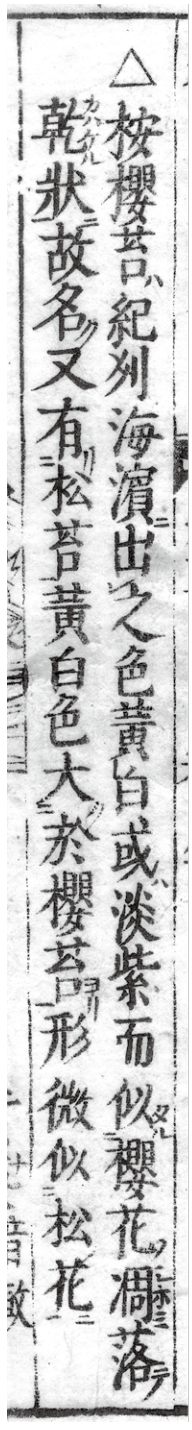
仲田 崇志

桜苔は，俳諧作法書『毛吹草』［松江重頼編，正保 2（1645）刊*1］に正月の言葉として，読みも説明もなく登場する。『毛吹草』を一部踏襲した（加藤 1984）図解百科事典『和漢三才図会』［寺島良安編，正徳 2（1712）序*2］にも桜苔（さくらのり）が載り，簡単な解説と図も示された。ただし内容はかなり怪しい。

サクラノリは，「紀州の海浜に生じ，黄白色または淡紫色で，桜の花が萎み落ちて乾燥した様子に似るために名付けられた」（原文は図左）と説明され，密生する桜の花弁のような姿で描かれた（図右）。これは，かつてサクラノリが指した「叉状分岐する紅藻類」とも和歌山（紀州）方言で指すアマノリ類とも明らかに異なる（『岡村金太郎のサクラノリ』参照）。サンゴモ類に見えなくもないが，掲載された他の海藻類が薬用または食用のものばかりなので考えづらい。

『和漢三才図会』には川太郎（カッパの異称）や龍など，良安が実見したはずもない架空の生物も図示されている。サクラノリも，桜の形をした海藻，という伝聞のみに基づいて描かれたのではなかろうか。

なお桜苔の付記で松苔にも触れていて，「黄白色でサクラノリより大きく，形はわずかに松花に似る」（原文図左）とある（松苔／マツノリも肥前名物として『毛吹草』に載る）。こちらも「松花に似る」は意味が分からない。



『和漢三才図会』の桜苔．架蔵本巻 97 より複製（推定文政 7 年版*3）．右，図（14 丁表）．左，説明文（14 丁裏）．

*1 加藤（1978・1980）を参照。
*2 寺島・和漢三才図会刊行委員会（1970）を参照。
*3 巻 97 のみで刊記を欠くが，国立国会図書館蔵の文政 7 年版（https://dl.ndl.go.jp/pid/2569772/1/17）の 14 丁表と「白」の字の欠け（龍鬚菜の説明 4 行目）など字形が一致していた。一方で寺島・和漢三才図会刊行委員会（1970）の影印には「白」字の欠けはなく，字形も異なる。

引用文献

加藤定彦（編）1978・1980．初印本 毛吹草 影印篇・索引篇．ゆまに書房，東京．
加藤定彦 1984. 毛吹草. 日本古典文学大辞典編集委員会（編）日本古典文学大辞典，2 巻．pp. 383–384．岩波書店，東京．
寺島良安・和漢三才図会刊行委員会（編）1970．和漢三才図会，上・下．東京美術，東京．